



ブラジルの大統領選挙と、選挙のブラジル経済への影響について

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジル新大統領決定:

ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバ(ルーラ)現ブラジル大統領は2期目で、2010年12月末で任期満了を迎えます。これを受けてブラジルでは、2010年10月3日に大統領選第1回投票が行われましたが、第1回投票では、得票率が50%を超える候補がいなかったことから、10月31日に第2回投票が行われました。

その結果、与党労働党(PT)候補であるジルマ・ルセフ候補が56%の得票率を獲得して当選しました。

ジルマ・ルセフ次期大統領は2011年1月1日、ブラジル初の女性大統領に就任する予定です。

ブラジル大統領選挙の経済および市場への影響について:

今回のブラジル大統領選は、当初から与党労働党(PT)候補であるジルマ・ルセフ氏と、野党社会民主党(PSDB)候補で前サンパウロ州知事であるジョゼ・セーラ氏の事実上の一騎打ちになると予想されていました。

ルセフ氏は、第1回投票間近に側近の汚職疑惑が発覚したことで若干支持率が低下し、第1回目投票での支持率は46.8%に留まりました。

第1回投票後の世論調査では、ルセフ陣営の汚職を追及したセーラ候補が追い上げ、接戦が伝えられていましたが、選挙戦も終盤に近づくと、有権者の関心は政策中心となり、ルセフ氏が支持率を拡大しました。

また、第1回投票で19.3%の支持率を獲得し(得票率で)3位となったシルバ氏が中立を表明したことで、セーラ氏の支持率はさほど伸びず、ルセフ氏が次期大統領に選出されました。セーラ氏の得票率は44%でした。

昨年2009年は、世界的に景気が後退する中、ブラジルでも財政出動を伴う景気刺激策を導入したことで足元では財政収支が悪化していることから、新大統領は財政収支改善に対する努力が求められると考えられます。

ルセフ氏は2003年1月のルーラ政権発足以降、鉱山・エネルギー相、官房長官を歴任(大統領選立候補のため、官房長官を辞任)、その行政手腕は高く評価されています。

またルセフ氏は、ルーラ大統領の後継者として、規律ある財政政策、インフレ・ターゲット制度、為替の変動相場維持といった経済政策を概ね継承すると見られており、今回の大統領選挙の結果が、経済政策に大きく影響を及ぼす可能性は低いと考えられます。

ブラジルでは、2014年のサッカー・ワールドカップや2016年のリオ・エ・ジャネイロ五輪などのイベントを控えており、インフラ整備投資が活発化すると期待されており、中長期的に見て、魅力的な経済成長を達成していくとの見通しに変わりはないと考えております。

市場ではルセフ氏の当選を既に相当程度織り込んでいたと考えられますが、ルセフ氏は、民間企業との共存を図りつつ、エネルギーや金融などの戦略的分野への国家関与を強化すると示唆しており、ペトロブラス(ブラジル石油公社)など、国営企業に対する関与を強める可能性があることと見られていることから、こうした銘柄は短期的には神経質な値動きをすることも想定されるため、当面は注意深く市場の推移を見守ってまいります。

ただし、経済が引き続き好調なことからブラジル企業の業績は堅調に推移しており、中長期的には、経済のファンダメンタルズが正当に評価され、政局の影響は限定的なものにと留まると考えられます。